『ツギハギ』【掌編・狂気】

山田文公社

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
『ツギハギ』【掌編・狂気】

【Ｎコード】
Ｎ５０６７Ｐ

【作者名】
山田文公社

【あらすじ】
継いで縫って縫いつけて、でも決して元には戻らない。

『ツギハギ』作：山田文公社

一針一針丹念に縫い合わせる、ガラスの破片、もげたクマのぬいぐるみの腕、死んだ男の手、便所のぞうきん、楽しく鼻歌交じりにシャボン玉を飛ばして歌う。切ってはついで、切っては縫っていく。鳴き声は聞こえない。何を縫っている。腐った匂いが部屋中に蔓延しハエが飛び交い狂想曲を奏でる。縫った肉にはウジがわき、生きてるような死んでるような。子守歌を歌ってあげる。抱えて揺らして歌ってあげる。揺れるたび頬にガラスの破片が食い込んで痛みが走って血が流れる。電気が止められたのは死んだあなたのせい、いつもお酒を飲んで子供を叩いて叫んでお説教が楽しそうね、虫酸が走る。撫でる髪が抜けていく、笑わなくなってから、泣かなくなった。あんなに叩かれて泣いておびえる子供だったのに、静かに黙ってしまった。きっとだからバラバラなんだけど、元にはもどらない。あの人が色々と捨てたから元には戻らない。部屋にあるモノを継ぎ足してあげたけど、どれもこれもが似合わない。ああ臭う、酷く臭う、またお風呂に入れなければ、服を脱がせて体を洗う、ぬめぬめした汗が出始めてから臭うようになった。本当は吐きたくないけれど何度か吐いた。洗っても臭いは落ちない。シャンプーで洗うたびに髪が抜け落ちている。今日は強く洗いすぎたせいかしら髪がカツラのようにとれた。また縫わなくちゃ。縫わなくちゃ。ツギハギに縫わなくちゃ。何度縫っても戻らない。

あいつのせいだ！業火のような怒りが沸いた。あいつさえいなければこんなツギハギにしなくても良いのに、あいつのせいだ。ソファーで寝ているあいつ、フライパンで殴りつけると頭がとれた。叩くとハエが飛び交った。腕を引っ張ると簡単にとれた。子供と同じようにぬめぬめの汗をかいていた。

「あんたに似てあの子も臭いのよ！ぬめぬめしてハエが体にたかっているのに平気なの？」
黙って何も言わなかった。落ちた顔がこちらを見ていた。腹立たしく蹴り飛ばすとベランダのガラスが割れた。吹き込む風が部屋中のハエが暴れ出した。シャワーが出しっぱなしだった。動かない子供が水を浴びていた。
「風邪引くでしょ！」
怒ってシャワーを止める。体を丁寧に拭くと少しヌメリがとれていた。体中のツギハギが痛々しかった。
「ゴメンねマーくんゴメンね痛かったでしょ、寒かったでしょ？」
子供に服を着せてリビングへと戻った。玄関の呼び鈴がなった。
「はーい」

「吉田さん、あのお宅少し臭うんですけども…何かされてます？」
それは大家の高橋さんだった。
「いいえ、なんですかいきなり」
「ちょっと玄関開けてもらえませんかね？」
「ええ…いいですけど」
訝しげに思いながらインターホンを切り玄関を開けた…。

（後書き）

お読み頂きありがとうございました。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n5067p/

『ツギハギ』【掌編・狂気】

2010年12月15日04時43分発行